子育て支援メッセいしかわ２０２０～オンラインで親子に伝える～

団体名●子育て支援メッセ実行委員会（事務局：(公財) いしかわ結婚・子育て支援財団内)、芥川ゼミナール／代表者名●芥川元喜(人間科学部こども学科准教授)

はじめに

芥川ゼミナール３年生と２年生が「子育て支援メッセいしかわ２０２０」(子育て支援メッセ実行委員会主催：１１月２２日(日)ネット上でオンライン開催)に出演する動画を制作した。

「子育て支援メッセいしかわ」は昨年度に続いての参画だったが、今年度はコロナウィルス感染拡大の影響により、オンラインでの開催となった。文中の写真は実際の動画配信の画面画像である。

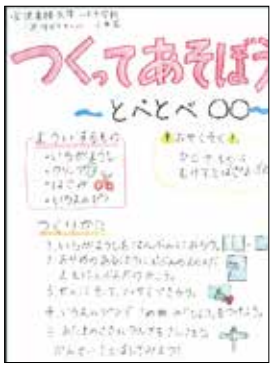
企画・制作の活動

ゼミ生は、実行委員会の担当者から開催の趣旨説明を直接聞き、親子で楽しんでみてもらえる動画を制作しようと話し合い、考え、企画をして動画の台本づくりを行った。内容は、時間として設定された３０分の動画制作のうち、前半は２年生が「考えて作るものづくり」を企画・制作、後半は３年生が「星稜こころタイム」と題して、相手の気持ちを考えることについて企画・制作した。

「考えて作るものづくり」の制作（２年生）

「考えて作るものづくり」では、親子で、ものづくりを楽しめる動画にすることを目的に制作した。学生たちはただ作るのではなく、楽しく〝考える要素〟を入れようと話し合い、親子で安全に飛ばせるおもちゃを作る企画とした。子どもが考える要素としては、できるだけ長い時間飛べるにはどうすればいいかを自分で考えることとした。

また、事前に必要な道具や用意するものをメッセのホームページにも事前に掲載して頂いた(写真：実際に学生が作成した説明書の１ページ)。作り方の説明書も学生たちで作成し、ホームページに掲載して頂いた。説明書は３ページあり、より分かりやすく伝えられるように学生たちも意識をして制作した。



「星稜こころタイム」の制作（３年生）

「星稜こころタイム」では、友だちとの関係づくり、相手の気持ちを考えることとはどういうことなのか、を親子で考えてもらう内容にしようと制作した。子ども同士がボールと取り合う場面や、オンラインでメッセージのやり取りを行う際の出来事を取り上げ、どのように行動するのがいいのかを親子で考えてもらう内容を制作した。

ボールの取り合い場面では、手作りのペープサートで表現し、より子どもたちが関心を持ってもらえるように工夫をした。

また、メッセージのやり取りは、いまの子どもたちを取り巻く情報化社会の状況を踏まえ、メッセージ交換アプリを使ったやり取りを教材として作成した。コロナ禍でネット環境に触れる子どもたちが全国的に大幅に増加していることを調べて、〝自分たちが出来ること〟はここにあるのではないかと考え、企画した。

成果、結果の考察

学生は、企画の話し合い、準備、練習、収録(写真は収録の様子)も含めて、多くの時間を費やしたが、その取り組んだ分、ライブ配信では、多くの視聴者の方がいらしたと実行委員会の方から報告があった。写真は当日ライブで出演した様子である。ライブ出演での動画紹介は感染対策の為、代表学生のみが出演した。

動画の収録、編集は、実行委員会の方々の力も借りた。ライブ視聴で参加する親子のために、事前のホームページでの準備物の掲載など、学生からのお願いにもすぐに対応して頂いた。

動画の終わりの場面では、全ゼミ生が揃ってコロナ禍を過ごす子どもたちに自分たちの思いを込めたメッセージを伝えた。それは、子どもたちの〝今〟に寄り添いながら、子どもたちに送る、学生たちの精一杯のエールであった。

コロナ禍に生きる親子のために、大学生が出来ることは少ないのかも知れないが、その自分たちが〝出来ること〟とは何なのかを考えることの大切さをゼミ生みんなで共有できた貴重な活動となった。

実行委員会の方々と連携し、収録を無事に終えた学生はみんな笑顔であった。学生たちがコロナ禍にこうした活動が出来たことは大きな意義があったと考える。活動を通して、何かを与えるのではなく、与えてもらったのは学生たちであったのかも知れない。

学生の振り返りの感想で終わりたい。

〝コロナ禍でいろいろな事ができなくなり、日常の生活から失うことや失うものに目をむけがちな私たちに一つの希望を持たせてくれた活動でした。〟